

成績概要書 (2009年1月作成)

課題分類：

研究課題：平成20年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
(植物防疫事業)

担当部署：北海道病害虫防除所、中央農試生産環境部予察科・病虫科、
環境保全部クリーン農業科、上川農試研究部病虫科、道南農試研究部病虫科、
十勝農試生産研究部病虫科、北見農試生産研究部病虫科、
花・野菜技術センター研究部病虫科、技術普及課、北海道農業研究センター

担当者氏名：

協力分担：全道農業改良普及センター

予算区分：補助 (植物防疫)、道費

研究期間：2008年度(平成20年度)

1. 目的

平成20年度に実施した調査および試験研究結果から、特に留意を要する病害虫について注意を喚起する。

2. 方法

- 1) 農作物有害動植物発生予察事業
- 2) 突発および新発生病害虫診断試験および調査
- 3) 各種の試験および調査

3. 成果の概要

1) 平成20年にやや多～多発した病害虫

- (1) 小 麦：眼紋病
- (2) 大 豆：マメシンクイガ
- (3) 菜 豆：菌核病
- (4) ばれいしょ：疫病、そうか病
- (5) たまねぎ：白斑葉枯病
- (6) ね ぎ：さび病、ネギアザミウマ
- (7) だいこん：軟腐病
- (8) り ん ご：モモシンクイガ、キンモンホソガ、ハマキムシ類

2) 平成21年度に特に注意を要する病害虫

- (1) てんさいの西部萎黄病
- (2) いちごの炭疽病
- (3) てんさいのアシグロハモグリバエ (主産地での発生地域拡大)
- (4) 各種作物のヘリキスジノメイガ

3) 新たに発生を認めた病害虫

- (1) ばれいしょの紅色斑点病 (新称)
Pyrenochaeta sp.
- (2) ながいものカンザワハダニ (新寄主)
Tetranychus kanzawai Kishida
- (3) ブロッコリーの株腐病 (新称)
Rhizoctonia solani Kühn AG-2-2 IV
- (4) ブロッコリーのピシウム腐敗病 (新発生)
Pythium ultimum Trow var. *ultimum*
- (5) セルリーの斑点病 (耐性菌の出現)
Cercospora apii Fresenius
- (6) セルリーの腐敗病 (新発生)
Pseudomonas marginalis pv. *marginalis* (Brown 1918) Stevens 1925

- (7) ほうれんそうのヒメモグリハナバエ (新寄主)
Pegomya flavifrons (Walker)
- (8) みつばの立枯病(新発生)
Rhizoctonia solani Kühn AG-2-2 III B
- (9) ねぎのアシグロハモグリバエ (新寄主)
Liriomyza huidobrensis (Blanchard)
- (10) ねぎの黒穂病(新発生)
Urocystis cepulae Frost
- (11) ねぎのリゾクトニア葉鞘腐敗病(新称)
Rhizoctonia solani Kühn AG-4 HG- I
- (12) にらの褐色葉枯病(新称)
Stemphylium botryosum Wallroth
- (13) にらの白色葉腐病(新称)
Rhizoctonia solani Kühn AG-2-1(培養型 II)
- (14) ジャガイモYウイルス (PVY) によるピーマンのモザイク病 (病原の追加)
Potato virus Y
- (15) いちごの炭疽病 (病原の追加)
Glomerella cingulata (Stoneman) Spaulding & Schrenk (*C. gloeosporioides*)
- (16) オクラの灰色かび病(新症状)
Botrytis cinerea Persoon : Fries
- (17) オクラのヒラズハナアザミウマ(新寄主)
Frankliniella intonsa (Trybom)
- (18) サンダーソニアの条斑モザイク病 (新発生)
Cucumber mosaic virus
- (19) ぶどうのオウトウショウジョウバエ(新寄主)
Drosophila suzukii (Matsumura)
- (20) ブルーベリーの灰色かび病(新発生)
Botrytis cinerea Persoon : Fries
- (21) ライラックのオリーブアナアキゾウムシ (新発生)
Dyscerus perforatus (Roelofs)
- (22) 各種作物のヘリキスジノメイガ (新寄主)
Margaritia sticticalis (Linnaeus)

4. 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

5. 残された問題とその対応

- 1) 各種病害虫の要防除水準の設定
- 2) 簡易な調査方法とモニタリング手法の改善
- 3) 発生変動要因の解明と発生予察法の改善
- 4) 病害虫発生情報の収集および伝達の迅速化